

ミズバショウ

Lysichiton camtschatcense

サトイモ科



ミズバショウ

名前の由来

水気の多い場所や湿地に生育し、葉が大きくてバショウ（バナナの仲間）の葉に似ていることから名付けられた。バショウの名はこの種を指す漢名から由来し、本来は広くバナナ類を指す名前であった。肉質で幅の広い葉の形から「牛の舌（ベコノシタ）」という方言がある。

漢字名：水芭蕉

形態的特徴

白いフードを持った花が群落になって咲く光景がよく見られる。高さは、花が咲いている時期では10～30cmほど。葉は長楕円形で軟らかく太い柄を持ち、花が終わった後に大きく展開し40～100cmになる。花は、黄色いやく（葯：雄しべの先の花粉袋）が目立つ小型の花が多数、円柱形に密生

した肉穂（にくすい）と呼ばれる形体をとり、純白で肉質の仏炎苞（ぶつえんほう）とよばれるフードに取り囲まれている。花には臭気がある。

類似種：特になし。



ミズバショウの「花」。白い「仏炎苞」の中に黄色いやく（雄しべの先）が目立つ小さな花がたくさん円柱状に集まっている



同じサトイモ科で、形が似ているザゼンソウ



ミズバショウ。葉のみの状態



ザゼンソウの葉

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期	■											
結実期		■										

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

林内の湿地や小川のほとりなどに生育し、しばしば大群落をつくる。

分布：国外分布は、千島、カムチャツカ、樺太、ウスリー。国内分布は、北海道と、兵庫県および本州中部以北の日本海側。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、林内の湿地や小川のほとりなどで見られる。しばしば大群落をつくる。。



ミズバショウ。林内の湿地によく大群落が見られる

生活史

開花時期：4月中旬～5月（山地の湿地では6～7月）

開花までの年数：不明

寿命：多年草。

他生物との関わり

実はクマに食べられて糞に混ざって分散される。また水の流れによっても分散される。

興味深い話

■サトイモ科の植物は主に熱帯に分布するが、ミズバショウやザゼンソウなどは例外的に寒冷な地域に分布している。

■ミズバショウの根茎には、1個の花序と2枚の葉が未発達な状態で1つのセットになったものが多数ぎっしりつまっている。そこからミズバショウの花と葉が、休眠期を除いて次々と展開してくる。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。他地方では「パラキナ」と

呼ばれており、幅の広い草という意味をもつ。またクマの草を意味する「イソキナ」という名前でも呼ばれており、春に穴から出た親グマが有毒の新芽を食べて、穴ごもり中に腸につまった脂肪分を排泄させると言い伝えられている。

■アイヌの人たちは、薬用として化膿しかけの挫創や腫脹にミズバショウの生薬を貼布して、化膿を潰破していたという。



ミズバショウ。花が終わりかけている



ミズバショウ。花の後に葉が大きくひろく

配慮事項

生育している環境全体が重要。

参考文献

「改訂版 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 北隆館 1989

「北海道植物図譜 滝田謙譲」自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅰ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1982

「サトイモ科ミズバショウ 週間朝日百科 植物の世界112」邑田仁 朝日新聞社 1996

「花のおもしろフィールド図鑑 春」ピッキオ 実業之日本社 2001

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 1995

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ